

環境調査結果のお知らせ

令和6年10月8日8時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

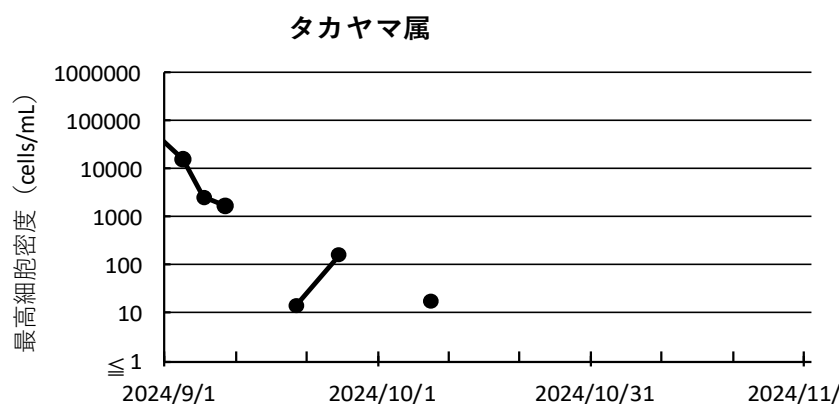
検鏡の結果、魚類に対して有害なヘテロシグマ・アカシオが最高で44 cells/mL、タカヤマ属が最高で18 cells/mL確認されました。また、二枚貝に対して有害なヘテロカプサ・サーキュラリスカーマが最高で17,700 cells/mL確認されました。ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマは被害が想定される細胞密度を超えていますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

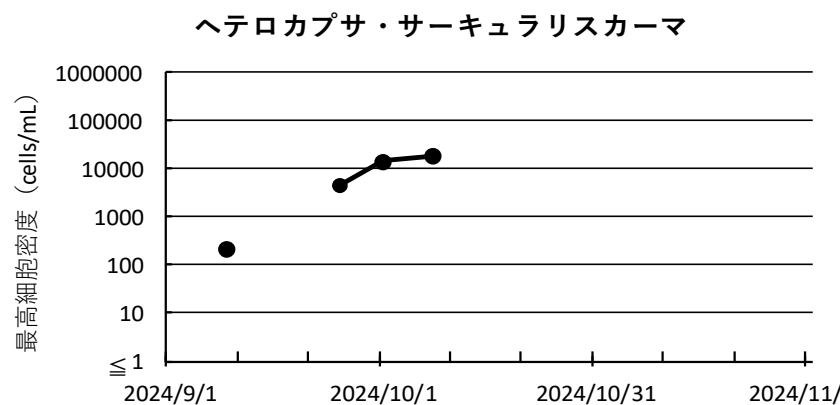
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ヘテロシグマ・ アカシオ	タカヤマ 属	ヘテロカプサ・ サーキュラリスカーマ	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)				
A 鳴無 (1.8m) 【09:45】	0	26.2	21.7	7.9	5	0	0	4,350
	1	29.5	29.0	8.8	0	6	7,200	13,700
	2	28.5	30.8	5.7	0	18	17,700	12,600
	5	27.8	31.4	1.8	0	2	17	100
	底層 9	27.5	31.6	3.4	0	0	0	20
B 中学校前 (3.3m) 【09:52】	0	27.8	26.0	7.1	0	6	3	19,200
	2	28.6	30.8	4.2	0	1	14	2,900
	5	27.9	31.3	3.7	0	15	0	2,700
	10	27.4	31.7	4.1	0	0	0	40
	底層 12	27.3	31.7	4.1	0	0	0	10
C 目ノクソ (3.3m) 【10:01】	0	26.8	25.1	7.3	0	0	0	13,000
	2	28.7	30.8	5.6	0	0	2	3,000
	5	27.9	31.3	4.0	0	0	0	1,000
	10	27.5	31.6	3.8	0	0	0	40
	底層 15.5	27.3	31.9	4.0	0	0	0	40
D 福良 (3.9m) 【10:10】	0	26.4	24.3	6.9	44	0	0	800
	2	28.8	25.4	6.5	0	0	1,550	740
	5	27.9	26.9	4.5	0	1	2	450
	底層 9.5	27.4	31.7	3.6	0	0	0	10
E 光松 (4.3m) 【10:16】	0	27.8	27.5	6.6	0	8	0	1,400
	2	28.3	30.9	5.4	0	2	130	3,300
	5	27.7	31.4	4.5	0	1	0	160
	10	27.6	31.6	4.4	0	0	0	50
	底層 17	27.4	31.9	4.6	0	0	0	60
F 大鹿 (3.6m) 【10:24】	0	27.6	27.0	6.8	0	2	0	10,500
	2	28.3	30.8	5.8	0	5	220	3,700
	5	27.8	31.4	4.8	0	2	2	550
	10	27.6	31.7	5.4	0	2	1	10
	底層 16.5	27.4	31.9	4.7	0	0	0	60

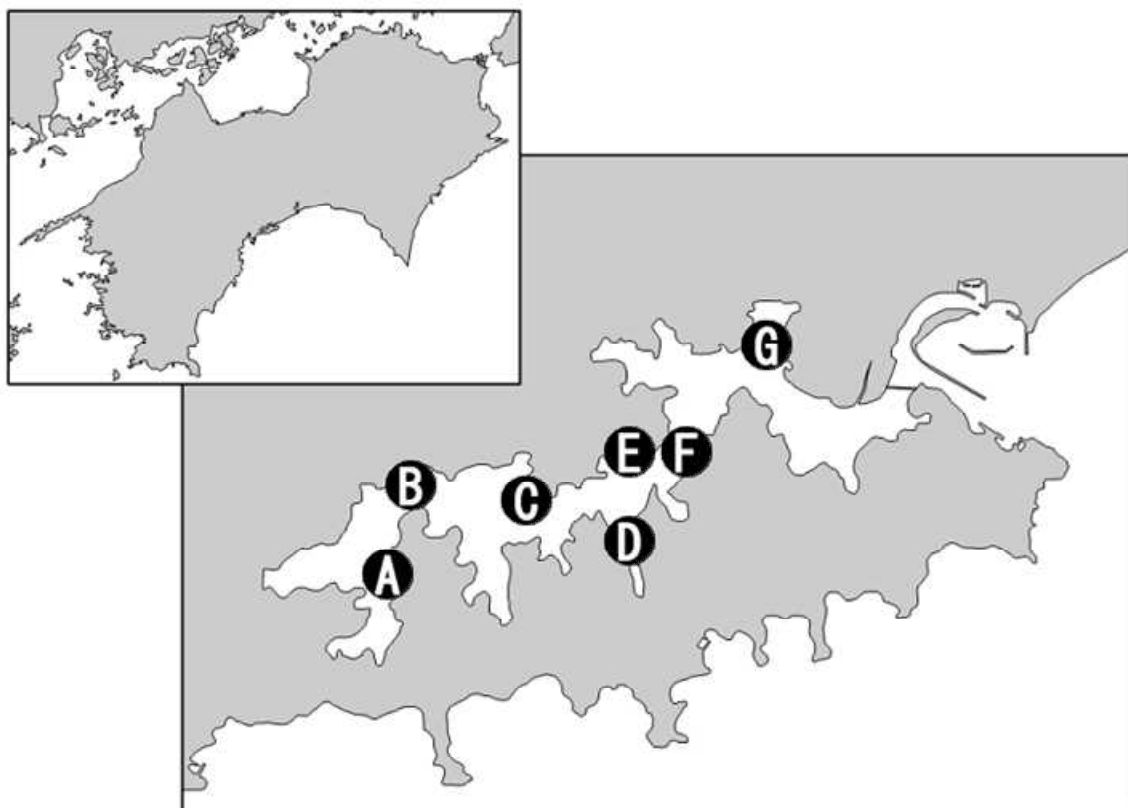
調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ヘテロシグマ・ アカシオ	タカヤマ 属	ヘテロカプサ・ サーキュラリスカーマ	珪藻
	(m)	(°C)		(mg/L)				
G 水試小割前 (5.1m) 【08:44】	0	27.1	29.1	6.0	0	2	4	140
	2	27.4	31.6	5.9	0	0	0	750
	5	27.4	31.8	5.8	0	0	1	60
	底層 9.5	27.3	32.0	6.1	0	0	0	40

令和6年度 浦ノ内湾におけるタカヤマ属の最高細胞密度の推移



令和6年度 浦ノ内湾におけるヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの最高細胞密度の推移





- A: 鳴無
 B: 中学校前
 C: 目ノクソ
 D: 福良
 E: 光松
 F: 大鹿
 G: 水試小割前

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキシンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。